

2 項目別評価 総括表

評価項目		公立大学法人自己評価								評価委員会評価	
		計画達成の状況								項目別評価	評価における特記事項
第1	大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	A	13	B	155	C	3	D	0	II	
		一部計画を下回っているが、概ね計画どおり実施し、一定の成果をあげた。									
1	教育に関する目標を達成するための措置	A	1	B	61	C	2	D	0	II	
		一部計画を下回っているが、概ね計画どおり実施し、一定の成果をあげた。									
(1)	入学者受入方針及び入試制度に関する目標を達成するための措置	A	1	B	8	C	1	D	0	II	県内医療を担う優れた入学者を確保するため、医学部及び看護学部の入試方法を検討しており、特に看護学部の推薦入試の出願資格の要件に、「県内医療を担うため、卒業後、県内の医療機関等において看護従事者として保健・医療・福祉に貢献しようとする積極的な意志を有する者」と加えたことは評価できる。目標充足率を達成出来なかった大学院看護学研究科については、引き続き取組推進を期待する。
		医学部では、入試結果を分析し、県内医療を担う優れた入学者を確保するための入試方法について、入試委員会で検討した。また、看護学部では、推薦入試による入学者の卒業後の進路を調査・分析し、出願資格に県内医療を担う人材確保のための要件を新たに加えた。									
(2)	教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置	A	0	B	36	C	0	D	0	II	医学部において、医学教育認証評価制度に対応するため新カリキュラムの概要をまとめ、更には、平成27年度から1年生に導入するためにカリキュラム編成を完了したことは評価できる。また、会津医療センターでの臨床実習体制を充実させるため、実習の見直しや臨床研修指導医講習会受講の推進を図ったこと、平成27年度から看護学部生を受入れるための実施計画を策定したことは評価できる。
		学士課程においては、生命の尊厳や人間について深く理解する能力を育成するため、「歴史学」、「倫理学」、「生命倫理」などの教育を実施した。また、大学院課程においては、多分野にわたる最先端の研究法や知識を幅広く習得させるため、学外から講師を招いて、博士・修士両課程とも必修科目として「大学院セミナー」を開講するなど、概ね計画どおり実施した。									
(3)	教育の実施体制に関する目標を達成するための措置	A	0	B	8	C	1	D	0	II	5年生及び6年生のBSLにおける学外教育協力病院での実習の実施に加え、地域の実情を学ぶ機会として、1年生及び3年生も地域実習を実施したことは評価できる。
		5, 6年のBSLにおいて、臨床教授制度を活用し、学外の教育協力病院で実習を行った。また、ティーチングアシスタント制度を活用し、実験・実習に関する教育補助業務に積極的に活用した。									
(4)	学生への支援に関する目標を達成するための措置	A	0	B	9	C	0	D	0	II	ファカルティーアドバイザー制による個人面談実施率が95.2%と前年比で7.9ポイント向上したことは評価できる。
		医学部では、担任制及びファカルティーアドバイザー制を実施し、看護学部では学生生活アドバイザーを配置するなど、学生が相談や質問をしやすい環境を提供している。									

2 項目別評価 総括表

評価項目		公立大学法人自己評価								評価委員会評価	
		計画達成の状況								項目別評価	評価における特記事項
2	研究に関する目標を達成するための措置	A	4	B	15	C	0	D	0	II	
		概ね計画どおり実施し、一定の成果をあげた。									
(1)	研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置	A	2	B	9	C	0	D	0	II	リサーチ・プロポーザル事業の基本計画策定及び新規事業の立ち上げによる独創的なプロジェクト創出の推進、福島医薬品開発支援拠点化事業に基づく研究機関や企業等との連携拡大、英語論文作成支援の充実など、質の高い研究を生み出す体制整備を行ったことは評価できる。
		生命科学・社会医学系・総合科学系・看護学系講座と臨床医学系講座との共同研究促進事業（リサーチ・プロポーザル事業）の計画をまとめ、次年度の新規事業として「戦略的学内連携研究推進事業」を立ち上げ、本学の独創的なプロジェクトの創出への一歩を踏									
(2)	研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置	A	2	B	6	C	0	D	0	II	男女共同参画推進本部を立ち上げ、基本理念及び基本方針を定めるとともに、具体的な取組及び成果を促すために平成27年から3年間を取組期間とし、女性教員在職比率等の数値目標を設定する行動計画を策定したことは評価できる。また、英語論文作成支援策により、論文発表を主にした講義の受講者や英文校正支援の依頼件数が増加しており、質の高い英語論文を作成しやすい環境を整備していることは評価できる。
		学内研究者が直接相談できる英文校正支援サービス従事職員を継続して配備するとともに、メディカルイングリッシュクラスにおいて、論文発表を主とした講義内容に変更し、充実を図ることで、受講者も増えた。									
3	地域貢献に関する目標を達成するための措置	A	1	B	15	C	0	D	0	II	
		概ね計画どおり実施し、一定の成果をあげた。									
(1)	地域社会等との連携・協力に関する目標を達成するための措置	A	1	B	7	C	0	D	0	II	会津医療センターにおいて、院内見学会や健康教室等の地域の健康増進を支援する活動を積極的に行ったことは評価できる。
		県民の方を対象とした、保健・医療に関する公開講座、講演会等を26件開催した。また、県内各教育機関からの講師派遣依頼に対し、積極的に対応するなど、概ね計画どおり実施した。									
(2)	地域医療等の支援に関する目標を達成するための措置	A	0	B	7	C	0	D	0	II	地域の医師不足解消のために、へき地医療の拠点病院や地域の救急・災害・周産期・感染症等の分野を担う民間病院等への医師の派遣、特に震災等の影響を受けた相双・いわき地区への派遣を重点的に行ったことは評価できる。また、会津医療センターにおいて、他の医療機関からの診療応援やへき地医療拠点センター病院として、県立南会津・宮下病院、国保診療所に対し、積極的に応援を行ったことは評価できる。
		地域の医師不足解消のため、教員を本学地域医療支援センターへ配属し、へき地医療の拠点病院や公的医療機関、地域医療や救急・災害・周産期・感染症等の分野に貢献していると認められる民間病院等へ派遣し、支援を行うなど、概ね計画どおり実施した。									
(3)	地域産業の振興に関する目標を達成するための措置	A	0	B	1	C	0	D	0	II	臨床系講座の研究シーズを取りまとめ、31講座44シーズからなるシーズ集を完成させ、ホームページに公開したこと、さらに、産学官連携セミナー等による企業とのマッチング活動により具体的な連携事業に展開が見込まれる案件が出たことは評価できる。
		基礎系講座の研究シーズ集作成に加え、平成26年度はさらに臨床系講座の研究シーズを取りまとめ、31講座44シーズからなるシーズ集を完成させ、ホームページ上に公開した。									

2 項目別評価 総括表

評価項目		公立大学法人自己評価								評価委員会評価	
		計画達成の状況								項目別評価	評価における特記事項
4	国際交流に関する目標を達成するための措置	A	0	B	7	C	0	D	0	II	
		概ね計画どおり実施し、一定の成果をあげた。									
(1)	国際交流の推進に関する目標を達成するための措置	A	0	B	7	C	0	D	0	II	IAEA(国際原子力機関)と連携した共同プロジェクトや国際学術会議など、放射線と健康に関する国際機関等との取組推進を図ったこと、またそれらを通して大学の放射線災害医学教育等の取組の発信につなげたことは評価できる。
		中国武漢大学とは国際学術交流協定に基づき、武漢大学教員の受入(3名)、本学学生の留学(4名)を行った。また、ベラルーシ医科大学・ゴメリ医科大学、マウントサイナイ医科大学との交流協定に基づき、本学学生を留学(各1名)させ、教員の招へいや学生の受入を行ったほか、シンガポール国立大学への学生留学(1名)や海外大学からの短期留学の受入も行い、概ね計画どおり実施した。									
5	大学附属病院に関する目標を達成するための措置	A	7	B	57	C	1	D	0	II	
		1項目については計画を下回っているが、概ね計画どおり実施し、一定の成果をあげた。									
(1)	附属病院に関する目標を達成するための措置	A	5	B	41	C	0	D	0	II	看護部の看護実践等の向上や医療感染管理活動の強化など病院機能・体制の整備を図ったこと、人材育成の取組として、認定看護師4名及びICD認定取得者1名を育成したことは評価できる。また、診療科別の収支分析を行うとともに、科別の収支・患者数・稼働データ等を各診療科と共有し、経営改善に向けた取組について検討を行ったことは評価できる。
		病院マネジメント支援システムにより原価計算を行い、診療科別の収支分析結果を病院経営企画会議等で報告・協議した。また、原価計算の精度向上や処理の効率化を目指し、費用配賦や取り込むデータについて精査・検証を実施した。平成26年10月には、新たに管理会計クラウドサービスを導入し、診療科別の収支だけでなく、特定の診療科における主要DPC(診断群分類による包括請求)コードの分析結果について報告を行った。									
(2)	会津医療センターに関する目標を達成するための措置	A	2	B	16	C	1	D	0	II	連携協力病院協定を締結している病院との連携体制の強化に取組み、また、患者支援センターを中心に紹介・逆紹介の推進に取組んだ結果、紹介率・逆紹介率ともに前年度実績を上回る成果を出したことは評価できる。
		大学と連携しながら年度を通して医学部より臨床実習を受け入れ、看護学部学生については本学と協議し、平成27年度での実施を計画した。また、竹田総合病院、会津中央病院と連携し、研修医を対象として会津日新館EBMセミナーを2日間開催したほか、消化器内視鏡医による講演会の開催など、地域の関係医療機関との協力・連携を行った。									

2 項目別評価 総括表

評価項目		公立大学法人自己評価								評価委員会評価	
		計画達成の状況								項目別評価	評価における特記事項
第2	東日本大震災等の復興支援に関する目標を達成するためにとるべき措置	A	1	B	15	C	0	D	0	II	
		概ね計画どおり実施し、一定の成果をあげた。									
1	県民の健康の保持・増進に関する目標を達成するための措置	A	0	B	5	C	0	D	0	II	県民健康調査データ管理システムについて、学術論文文化のための統計解析支援を行ったほか、国内外の学会発表等にデータを提供するなど活用を図ったことは評価できる。
		関係機関等との連携を図りながら県民健康調査を推進するなど、概ね計画どおり実施した。									
2	復興支援に関する目標を達成するための措置	A	1	B	2	C	0	D	0	II	医学部5年生へのBSLや医療人を対象としたセミナーを実施し、災害・放射線に関する人材育成を行うとともに、避難住民への健康相談を実施し、実地研修を通じた被災地貢献を行ったことは評価できる。
		本学医学部5年生へのBSLに災害・放射線に関するプログラムを加え、県内外の医療人を対象とするセミナーを実施し、災害・放射線に関する人材育成を行うとともに、避難住民への健康相談を実施し、実地研修を通じた被災地貢献を行った。									
3	放射線医学の教育研究等に関する目標を達成するための措置	A	0	B	7	C	0	D	0	II	放射線医学に関する教育、研究及び医療拠点となるふくしま国際医療科学センターの整備について、建設工事に着工し、また、先端臨床研究センターについて、新たに専任の放射線科医を配属し業務体制の強化を図るとともに、詳細な事業計画書及び工程表を作成したことは評価できる。
		ふくしま国際医療科学センターの整備に係る建設工事について、平成26年5月9日に契約し、着工した。									
4	復興支援の連携・協力に関する目標を達成するための措置	A	0	B	1	C	0	D	0	II	サイクロトロンを活用した研究について、放射線医学総合研究所や大阪大学と連携し、技術提供を受けるなど事業推進を図ったことは評価できる。
		サイクロトロンを活用した研究に関して、放射線医学総合研究所や大阪大学などと連携して、事業の推進を図った。									

2 項目別評価 総括表

評価項目		公立大学法人自己評価								評価委員会評価	
		計画達成の状況								項目別評価	評価における特記事項
第3	管理運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	A	1	B	51	C	2	D	0	II	
		一部計画を下回っているが、概ね計画どおり実施し、一定の成果をあげた。									
1	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置	A	0	B	14	C	0	D	0	II	
		概ね計画どおり実施し、一定の成果をあげた。									
(1)	組織運営の改善に関する目標を達成するための措置	A	0	B	12	C	0	D	0	II	震災の経験を踏まえた大学の使命と今後の方向性について明確にし、学生及び教職員の意識を高めるため、「ビジョン2014」を策定し宣言記念式典を行ったことは評価できる。
		本学の置かれた歴史的使命と今後の方向性を明確にし、学生、教職員の意識を高めるため、「ビジョン2014」を策定し、6月1日に「ビジョン2014」宣言記念式典を開催した。									
(2)	事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置	A	0	B	2	C	0	D	0	II	決算事務の円滑化を図るため決算事務マニュアルを作成するなど、業務効率化を推進したことは評価できる。
		決算事務の円滑化を図るための決算事務マニュアルの作成や、会議等の事前説明について、出席者を見直すとともに、資料をタブレットで見えるようにペーパーレス化を行うなど、業務の効率化を図った。									

2 項目別評価 総括表

評価項目		公立大学法人自己評価								評価委員会評価	
		計画達成の状況								項目別評価	評価における特記事項
2	財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	A	0	B	6	C	0	D	0	II	
		概ね計画どおり実施し、一定の成果をあげた。									
(1)	外部研究資金等の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置	A	0	B	4	C	0	D	0	II	科学研究費の獲得支援策として、応募書類作成に係る説明会の開催やアドバイザーによる応募書類作成の支援を実施し、前年度を超える申請実績につなげたことは評価できる。
		科研費応募書類作成に係る講演会を開催し、科研費の獲得支援を行った。また、文科研費について応募書類のアドバイザーによるチェックを実施し、申請内容の精査を行なった。									
(2)	経費の抑制に関する目標を達成するための措置	A	0	B	2	C	0	D	0	II	夏季及び冬季期間の省エネ対策を徹底するとともに、施設整備に当たっては省エネ機器の採用したことは評価できる。
		省エネルギー推進委員会を開催し、削減目標を決定すると共に、夏季及び冬季期間の省エネルギー対策の徹底について、学内に周知した。また、施設整備の改修に当たり、省エネルギータイプの照明器具などを採用した。									
3	自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置	A	0	B	10	C	2	D	0	II	
		一部計画を下回っているが、概ね計画どおり実施し、一定の成果をあげた。									
(1)	評価の充実に関する目標を達成するための措置	A	0	B	3	C	2	D	0	II	公立大学法人評価委員会による評価結果を役員会で協議するとともに、関係各課にフォローアップを促したことは評価できる。なお、教員の自己点検・自己評価に対し検証等の実施までに至らなかった点については、改善策を図られたい。
		県公立大学法人評価委員会による評価結果について、役員会で協議するとともに、関係各課に通知し、フォローアップを促した。また、評価結果を大学ホームページで学内外に公表した。									
(2)	情報公開や情報発信等の推進に関する目標を達成するための措置	A	0	B	7	C	0	D	0	II	大学の研究成果等の発表に係るルールを明確化し、優れた研究成果を大学ホームページに随時掲載するなど、積極的な研究成果情報の発信に取り組んだことは評価できる。
		消費者庁・福島県主催の個人情報保護法に関する説明会に職員を派遣し、法律の目的や情報開示等の事務についての最新の知識を習得させ、情報開示に携わる職員に周知を図り、情報開示に携わる職員に周知を図った。									

2 項目別評価 総括表

評価項目		公立大学法人自己評価								評価委員会評価	
		計画達成の状況								項目別評価	評価における特記事項
4	その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置	A	1	B	21	C	0	D	0	II	
		概ね計画どおり実施し、一定の成果をあげた。									
	(1) 法令遵守に関する目標を達成するための措置	A	1	B	5	C	0	D	0	II	<p>公的研究費にかかるコンプライアンス研修会を開催し、公的研究費に加え倫理指針の遵守の徹底について全教職員に対し研修を実施したことは評価できる。</p> <p>学生寮の平成28年4月開寮に向け、建築工事を発注し、学生の入居に向けて調整業務を進めたことは評価できる。</p> <p>臨床心理士の学生相談枠を設けるなどのメンタルヘルス対策を強化し、学生の健康リスク対策を講じたことは評価できる。</p> <p>サーバ機器更新により、迅速にサーバシステムを構築できるようになったほか、サーバ機器数の低減に伴い使用電力量等の低下につなげたことは評価できる。</p>
	(2) 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するための措置	A	0	B	7	C	0	D	0		
	(3) 健康管理・安全管理に関する目標を達成するための措置	A	0	B	7	C	0	D	0		
	(4) 情報通信基盤の整備・活用に関する目標を達成するための措置	A	0	B	2	C	0	D	0		
		<p>新規採用職員を対象にコンプライアンスの徹底について研修を行い、また、コンプライアンス通信について委員会から各所属への通知及びデスクネットへの掲載により、周知を図った。</p> <p>ユニバーサルデザインに配慮したエレベーター及びトイレの改修や既設給水設備、火災報知設備等の更新を計画的に行った。</p> <p>災害対策マニュアル等をデスクネットに掲載するとともに、「大地震対策マニュアル（ポケット版）」を配布した。また、病院及び看護学部において消防・防災訓練を実施し、災害対策マニュアルに基づく対応手順を確認した。</p> <p>平成26年12月のサーバ機器更新に伴い、利用者の要望により迅速にサーバシステムを構築できるようになったほか、サーバ機器数の低減に伴い使用電力量及び発熱量を低下することができた。</p>									

合計	A	15	B	221	C	5	D	0	241
----	---	----	---	-----	---	---	---	---	-----

2 項目別評価 総括表

公立大学法人福島県立医科大学

評価項目	公立大学法人自己評価	評価委員会評価	
	計画達成の状況	項目別評価	評価における特記事項

注1: 自己評価の考え方

- A・・・年度計画を上回って実施している
- B・・・年度計画を予定どおりに実施している(達成度がおおむね90%以上)
- C・・・年度計画を下回って実施している(達成度がおおむね60%以上90%未満)
- D・・・年度計画を大幅に下回っている、または実施していない(達成度が60%未満)

注2: 評価委員会の評価の考え方

- I・・・年度計画を十分に実施できている
- II・・・年度計画をおおむね実施できている
- III・・・年度計画を十分に実施できていない
- IV・・・年度計画を実施できていない